

亦人身を受けて国主と成るは必ず五戒・十善に依る。外典は浅近の故に過去の修因・未来の得果を論ぜずと雖も、五戒・十善を持ちて国王と成る。故に人五常を破ること有れば、上天変頻りに顕れ、下地妖間に侵す者なり。故に今の世の変災も亦、国中の上下万人多分に撰択集を信ずる故なり。弥陀仏より外の他仏・他経に於て拜信を至す者に於ては、面を背けて礼儀を至さず、言を吐きて随喜の心無し。故に国土人民に於て殊に礼儀を破り、道俗禁戒を犯す。例せば阮藉に習う者は礼儀を亡ぼし、元嵩に随う者は仏法を破るが如し。

問うて云く、何を以て之を知る、仏法未だ漢土に渡らざる已前の五常は仏教の中の五戒たること如何。

答えて曰く、金光明経に云く、「一切世間の所有の善論は皆此の経に因る」と。法花経に云く、「若し俗間の経書・治世の語言・資生等を説かんと皆正法に順ぜん」と。普賢経に云く、「正法をもつて国を治め人民を邪枉せざる。是を第三の懺悔を修すと名く」と。涅槃経に云く、「一切世間の外道の経書は皆是れ仏説にして外道の説に非ず」と。止観に云く、「若し深く世法を識れば即ち是れ仏法なり」と。弘決に云く、「礼楽前に駆せ、真道後に啓く」と。広釈に云く、「仏三人を遣わして且く真旦を化し、五常を以て五戒の方を開く。昔、大宰孔子に問うて云く、三皇・五帝は是れ聖人なるか。孔子答えて云く、聖人に非ず。又問う、夫子は是れ聖人なるか、亦答う、非なり。又問う、若し爾らば誰か是れ聖人なるや。答えて云く、吾聞く、西方に聖有り、釈迦と号く」と。周書異記に云く、「周の昭王の二十四年甲寅の歳四月八日、江河泉池忽然として浮張し、井水並に皆溢れ出す。宮殿人舎・山川大地咸悉く震動す。